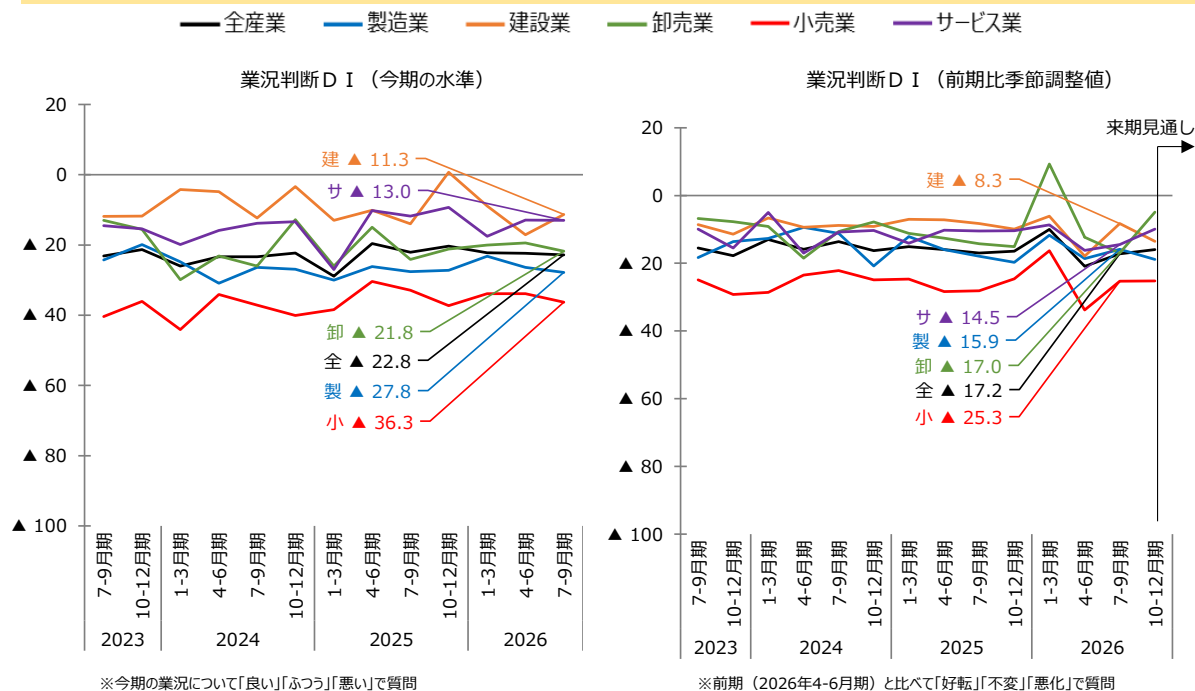


第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 四国

中小企業の価値を、
Be a Great Small 日本に原動力に。
中小機構

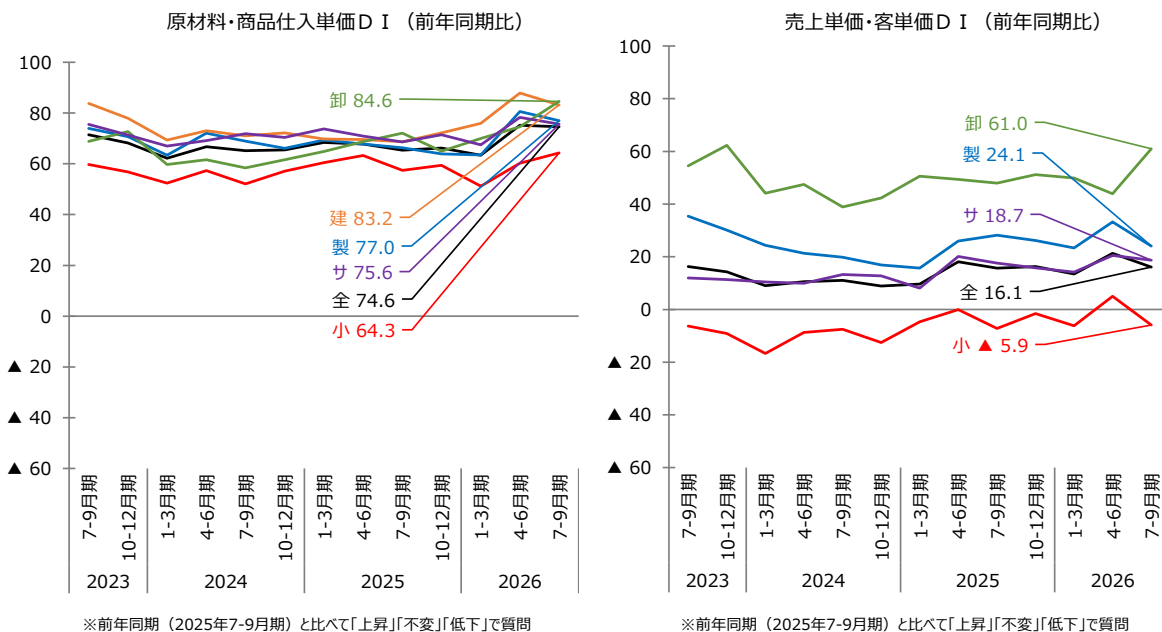
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より0.4ポイント減の▲22.8とやや低下し、3期連続して低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、小売業、卸売業、製造業、サービス業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.6ポイント減の74.6とやや低下し、2期ぶりの低下となった。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、建設業、製造業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.2ポイント減の16.1と2期ぶりの低下となった。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、製造業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,829 有効回答企業数：17,902 有効回答率：95.1% うち、四国：1,281企業

※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 四国

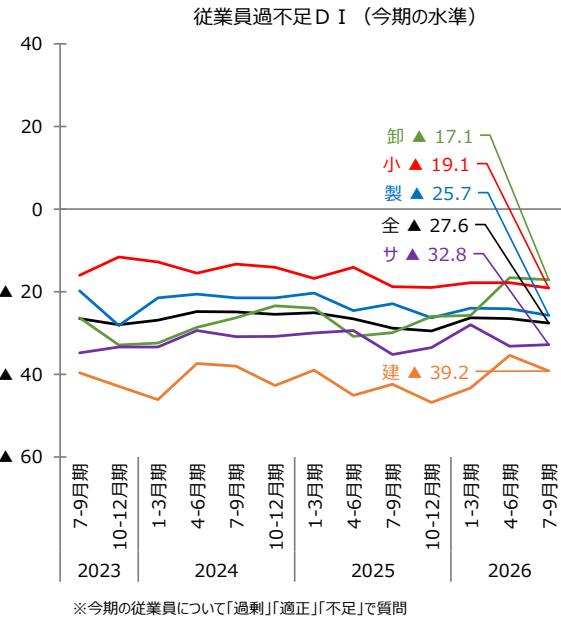
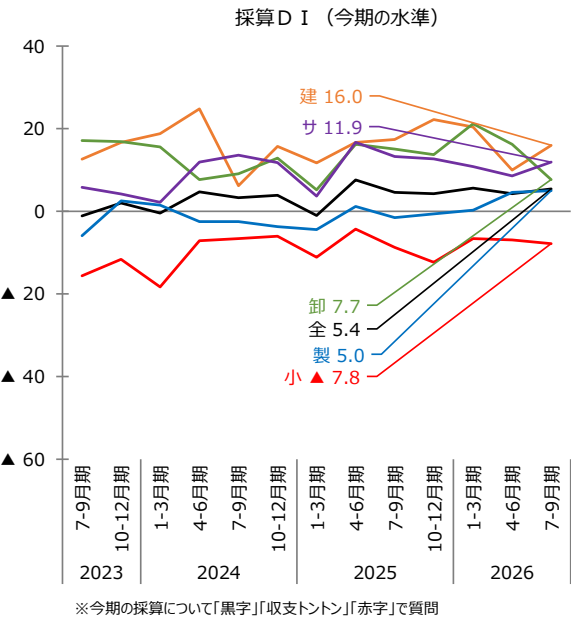


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.1ポイント増の5.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.1ポイント減の▲27.6と2期連続して低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、建設業、製造業、小売業、卸売業で低下した。



5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	ライフスタイルの変化に伴い、法要の簡素化が進み、仏壇・位牌等の需要が低迷している。これにより売上が減少しており、今後の雇用維持と経営安定に向け、雇用調整助成金の活用も視野に入れている。	製造業	宗教用具製造業
	仕事量は確保できているものの、従業員の高齢化や人材不足が課題となっており、労働力確保のため、来年4月からマンマーマ人材を受け入れ、雇用する予定である。	建設業	一般土木建築工事業
	自動車業界はEV化に向けて大きく変わっている。弊社では十数年前からこの流れを予測し、準備、対応してきた。その結果、需要をしっかりと取り込めている。	卸売業	自動車部分品・附属品卸売業（中古品を除く）
	アリーナ効果、インバウンド等で人通りは確かに多く感じるが、本来の顧客の減少状態が続いていたり、様々な値上げにより消費がより節約志向になり、小売業としてこれから非常に厳しくなると思われる。	小売業	洋品雑貨・小間物小売業
	昨年に続き、8月については観光客の動きがあった。宿泊単価も需要の高い日程には高く変動させたが、特に評価を落とすことなく、単価上昇に成功した。	サービス業	旅館、ホテル
見通し	通年は、春が売上増となるが、今期は夏が多くなっている。納品先は、納品スペースがないように聞くと、注文は多い状況である。今後、反動が出るかは未定であるが、注視する必要がある。	製造業	生薬・漢方製剤製造業
	外的要因が不明瞭であるとともに、人口減少の事などもあり、先の見通しが立ちにくい業況である。	建設業	一般土木建築工事業
	建築資材の値上がりや住宅着工件数の減少等の影響で、当社取扱商品の需要低下が懸念される。	卸売業	その他の建築材料卸売業
	酷暑の影響で飲料などの需要は増えて売上は上昇したが、経費と仕入が増加して、今期は収支トントンか赤字の見込み。9月から値上げラッシュや最低賃金の底上げなど、これからも厳しくなりそうだ。	小売業	食料品スーパーマーケット
	エネルギー価格の高騰が不安要素だが、リピーター客に支えられ、現状では例年並みの売上・利益規模で推移すると見込んでいる。	サービス業	旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)